



平成30年度理事会・社員総会開催

4月15日 郡山市民交流プラザ会議室

今年も活発な討議がなされました。壱岐会長から郡山開成水泳場が県外の皆さまにも利用して頂いている旨の話がありました。

また「水泳の日」の開催が正式決定が報告され、その日のうちに早速、実行委員会が開かれました。



バトンタッチ

公認プール測量者が伊藤清郷氏から橋詰知実氏（左写真）へ。橋詰氏が総会の席上で紹介されました。

橋詰氏も幼少より水泳を愛する河童の仲間です。

また、県中理事に平塚康晴氏、二瓶貴之氏が新たに就任しました。



大会は細やかな心遣いで運営
気が付いたらすぐ実践

全会津中体連理事長を2年経て、県中体連水泳専門部委員長を引き受け3年目になります。

第一に考えてきたのはアスリートファースト・選手の立場に立った競技運営でした。選手がそれぞれ気持ちを高めて競技に挑むことができ、良い結果につながってくれるかを考えて進めて運営してきました。

県大会以上になると参加人数は例年変わらないのですが、会津地区の中学校大会では、年々参加人数が減り、一昨年は186名、昨年は190名でした。

会津中体連の取り組み

中学校委員長 渡部洋一

以前は200名を超す参加があったのですが、年々減少をみせる原因は、生徒数の減少だけではないと考え、会津水連の協力のもと、3年前から水泳の強化だけではなく、普及にも力を入れるようになりました。

会津地区の全小学校を対象に普及の目的を理解して頂き11月から月一回のペースで練習会を開催する事ができました。毎回80名を超す小学生が集まり、当初の予定をはるかに上回る人数だったので、急遽、2部制のシステムで練習会を行うようになりました。指導陣は会津水連を中心に小学校の先生も参加して頂きスムーズに進める事ができました。

最後の練習には参加生徒に感想文を書いてもらい、それぞれが「きつい練習もあるけど楽しく練習に参加することができました」という反省が多く見られました。また、「中学校では水泳部に入って大会に出場したい」という思いを持ってくれた小学生もいました。



少しずつではありますが、会津水連としての取り組みもあり、今年の会津地区中体連は220名の生徒が出場することができました。特に耶麻地区（喜多方方面）からの参加人数が増えてきているのに連盟と連携しての取り組みが要因としてあるのだと確信したところです。

今後も中体連、水泳連盟と協力し合い、生徒が水泳に興味を持ち気軽に大会に出場して頂けることを期待すると共に、大会では、夢と希望と感動を味わってもらえるような大会運営を目指していきたいと思えます。

今年の競技役員・競泳審判講習会は、153名の参加でした。そのうち56名が資格取得の方。その中で、昨年度高校を卒業した方（または在学中の高専の方）が18名。今年も多くの仲間が誕生しました。

研修会の最後に、その場にお立ち頂き、紹介をさせていただきました。

新人を育てていくのは、先輩方の役目です。よろしくお願いします。

(めぐみ)



「新入社員を連れてきました！」
小林コーチ

「これからは同僚だね」青木先生と金澤先生
が高専水泳部員10名を引率



つのだ
角田家 親子で受講です

ジャパンオープン2018 実務研修に参加して

競技運営部長 田中 潔



ジャパンオープン2018は、東京辰巳国際水泳場において5月24日（木）から28日（日）まで開催されました。

日本選手権とジャパンオープンは、全国各地で行われる競技会の円滑な運営を目指し、我々競技役員の研究の為の実務研修を兼ねている競技会です。

実務研修とは言え、日本選手権で埋まらなかったアジア大会とパンパシフィック水泳選手権大会の代表選考も兼ねた大会であり、代表権を懸けた最終戦です。また、既に代表権を獲得した選手にとつては、日の丸を背負った「チームJAPAN」としての意地を見せる戦いの場です。日本競泳界の頂点の大会と言っても過言ではありません。

このような素晴らしい競技会の運営に少しでも関わる事が出来るとても光栄に思います。そして、県内の競技会も日本選手権やジャパンオープンと同様に、質の高い運営を行う必要性を改めて感じました。

今年では大幅なルールの改正はありませんでしたが、競技役員動きなど細かい点の確認や修正がありました。今までと違う点は、アイコンタクトは行わず、違反を確認した場合のみアピールを行うことです。違反行為を確認した監察員が審判長の所に行き違反内

容を口頭で説明した後、違反を確認した監察員が審判用紙を記入する。という点です。競技役員としては、規則に則り確実のジャッジを行うことは変わりません。

期間中は毎日、建設中のオリンピックアクアティクスセンターの外観を見る事ができ、間近に迫る東京五輪を想像し、なぜかワクワクした気持ちになりました。

また、連日辰巳国際水泳場や門前仲町で、他県の役員の方々と水泳に関する情報交換ができ、とても有意義な研修となりました。

県水連を代表して、競技運営部副部長の長澤俊一郎さん、高体連委員長の蒲田信幸さん、そして私の3名が競技役員として参加しました。私たちは競技会を運営する責任者として、規律ある運営、公平・公正な運営、円滑な運営を心掛け、活気のある競技会の運営を目指しております。

競技役員の皆様方も同じ思いで各競技会に携わって頂いていると感じています。また、常に「ふくしまの選手」が全国大会においても、最大の限のパフォーマンスを引き出せるよう、冷静に行動し、良い結果に繋がればと願っています。

